

CSR

Corporate Social Responsibility

REPORT 2025

Hydro Modern Chemistry

ハイモ株式会社

C O N T E N T S

HYMO CSR Report 2025

3 トップメッセージ

4 ハイモについて

会社概要
事業内容
事業所
売上高・従業員数
研究開発
品質サービス

5 お客様への責任

ハイモの技術と製品

ディスパージョンポリマー
エマルジョンポリマー
水処理用高分子凝集剤
製紙用高分子薬剤
土木用薬剤
収束剤
電気泳動ゲル

8 ハイモのCSR活動

CSR推進室
主なCSR活動
SDGsへの対応状況

10 環境への責任

環境関連データ
2024年度の目標と実績

13 社会・地域・従業員への責任

労働災害防止への取り組み
防災訓練(2024年度)
様々な手法によるエネルギー使用量の低減
安全衛生・災害への取り組み
ICT活用推進と情報セキュリティへの取り組み
ハラスメント相談窓口・法律相談窓口の設置
誰もが安心して活躍できる職場環境のために
育児休業制度、育児短時間勤務制度等
有給休暇の取得状況
英会話教室開講、新しい教育研修プログラムの構築

■ 編集方針

本レポートの作成にあたっては、「環境省・環境報告ガイドライン」等を参考としました。

※本レポートの作成にあたって、集計方法の見直しなどを行ったため、昨年の報告書と数値が異なる場合があります。

■ 報告対象範囲

対象期間：2024年4月～2025年3月（2025年7月発行）

※一部期間外の内容も含んでいます。

■ お問い合わせ先

ハイモ株式会社 CSR推進室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3848



社会に貢献する企業を目指し 革新と挑戦を続けます

私たちは、社会の豊かさを求め「人と自然の調和する社会」の実現をめざして、世の中に貢献する企業であり続けたいと願っています。

創業以来64年にわたって、「水とニュー化学」の領域において独創的な技術を培い、商品開発から生産・物流・技術サービスに至るまでのお客様のご要望にお応えすると共に、企業活動の全ての段階で社会的責任を果たす努力を重ねてまいりました。

近年では、持続可能な社会に向けた国際的な潮流から企業にも大きな変化が求められるなか、すべてのステークホルダーの皆様にご信頼いただき、未来に向けて発展を続ける企業をめざして、サステナビリティへの対応を推し進めております。

その一環として、多様な働き方への対応や、従業員一人ひとりが成長し続ける、誇りを持って働くことができる会社を目指した制度づくりにも注力し、2022年度より人事制度体系を刷新、2024年度には社員教育制度を再構築いたしました。

また、環境に携わる企業として、SDGs(2015年の国連サミットにおいて採択された持続可能な開発目標)の達成に資するべく、実行可能なテーマを設定して様々な取り組みを積極的に進めております。この一年も、これまでの姿勢と変わることなく、環境保全や省エネ化に寄与できるよう事業活動に邁進してまいりました。その結果を「HYMO CSR Report」にまとめましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

ハイモはこれからも、社会に必要とされる企業でありつづけ、より一層社会貢献に努めていく事をお約束いたします。

代表取締役社長 相曾 淳

ハイモについて

ハイモについて

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任

■ 会社概要

商号 ハイモ株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内
 3丁目4番1号
設立 1961年4月28日
資本金 281,968,500円

■ 事業内容

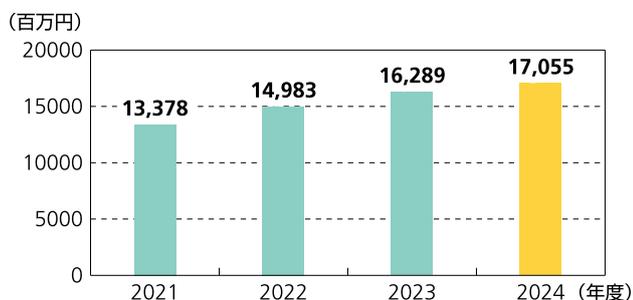
- 水処理用高分子凝集剤の製造販売
- 製紙用薬剤の製造販売
- 土木用薬剤の製造販売
- 生化学分析用ゲルの製造販売

■ 事業所

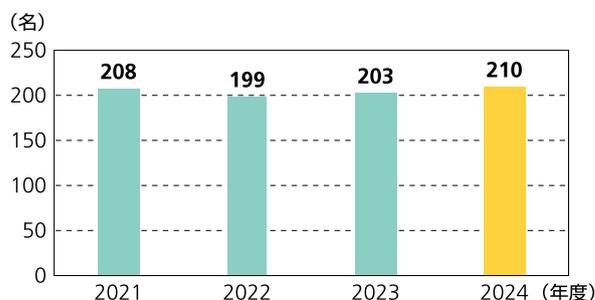
- 本社（東京）
- 支店（大阪）
- 営業所（札幌、仙台、名古屋、広島、福岡）
- 工場（青森、神奈川、山口、福岡）
- 研究センター（神奈川）
- テクノセンター（神奈川）

■ 売上高・従業員数

■ 売上高



■ 従業員数



■ 研究開発



技術戦略

「水とニュー化学」のテーマで、地球環境に優しい製法と製品を開発してきました。さらにCSR活動を推進するために、法適合と製品の安全に取り組んでいます。強力な知的財産戦略により、お客様に安心して使用していただける独自の技術を提供しています。

製品設計と機能の発掘

高度の解析技術と合成技術により、高分子の構造設計から機能の発掘へと展開し、製造法の確立に繋がります。

製品評価と使用技術の提案

先進的な機能評価技術により製品の機能を突きつめ、お客様へ最適な使用方法を提案し、新しい製品開発へ展開しています。

■ 品質サービス



生産体制

ISO9001とISO14001を取得し、最新の技術システムと環境保全体制の下で製造しています。また4工場による生産体制を構築し、大規模災害からのリスク回避を図っています。

物流体制

タンクローリー、コンテナ輸送等、お客様の受け入れ体制に合わせた輸送形態で製品を納入しています。また、輸送・納入時の無事故を最優先とした物流体制を整えています。

品質管理

万全の品質管理を行うことで、お客様に満足していただける製品のご提供が可能になります。確かな品質を維持するために、様々な規格や基準を設けています。

情報公開

化学製品を扱う者として、社会が求める情報を積極的に開示しています。レスポンシブル・ケア(RC)の理念に基づき、社会との対話を図りながら、社業に反映させています。

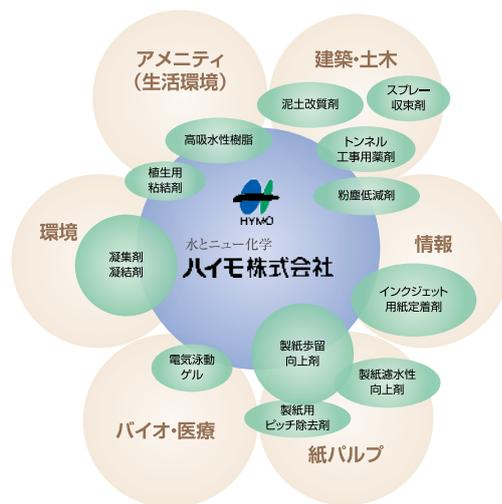
ハイモの技術と製品

水溶性高分子は環境にやさしい素材として世界的に注目を集めています。ハイモはこれまで「環境」「エネルギー」「健康」をキーワードに高度な高分子設計技術を用い、環境負荷の低減、生産性の向上に挑戦してきました。



多くの分野で利用されるハイモの商品群

当社はこれまで多様な原料を用い、優れた機能を有する環境にやさしい水溶性高分子を数多く開発し、現在も社会の広い分野で利用されています。産業界においては廃水处理、製紙プロセス、土木建設プロセスを中心とする凝集剤(ハイモロック)として、また医療分野においては電気泳動ゲルとして、更に、私たちに身近なところにおいてはインクジェット用紙の品質向上あるいは上下水道の汚泥脱水用凝集剤として、お客様の環境負荷低減、省資源化、リサイクルの推進等に役立っています。ここでは、環境に配慮した当社商品群をいくつかご紹介します。



環境に優しい高濃度水溶性ポリマー

ディスパーションポリマー

世界各国で使用されている特殊製法によるディスパーションポリマーは、当社で開発、製法が確立されました。このオイルフリー型の環境にやさしいポリマーは今後も数多くの新しい分野でその利用が期待されています。



水に素早く分散し、溶解する。



高機能型水溶性ポリマー

エマルジョンポリマー

高分子凝集剤の形態の主流である粉末製品に対し、特殊製法を取り入れ構造をコントロールした高機能型エマルジョンポリマーにより、使用量の低減、効果の向上を可能にし、環境負荷低減に貢献しています。



多くの分野で活躍 水溶性高分子の機能を活かす

これまで当社の開発した水溶性高分子は産業廃水处理における高分子凝集剤として発展してきました。当社は水溶性高分子が水中に懸濁する物質を集める凝集機能以外にも多くの機能を持つことに注目し、近年様々な分野への展開を積極的に進め、省資源化、生産効率の向上、安全性の向上に寄与する製品を提供しています。

■ 水溶性高分子とその応用

機能	用途
集める・沈める・浮かす	凝結剤・凝集剤
質を変える・接着させる	泥土改質剤・土壌改質剤
固める	固化剤
増粘させる・分散(減粘)させる	増粘剤・流動化剤・分散剤
定着させる	インクジェット定着剤
水にぬれ易くする	濡れ剤・親水化剤
収束させる・吹き付ける	収束剤・粉塵低減剤
吸水させる	吸水剤
展開させる・分離させる	電気泳動ゲル・イオン交換樹脂

お客様への責任

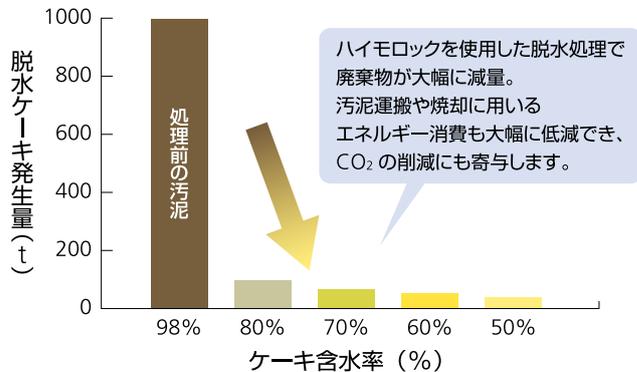
ハイモについて

きれいな水をつくり廃棄物を削減する 水処理用高分子凝集剤

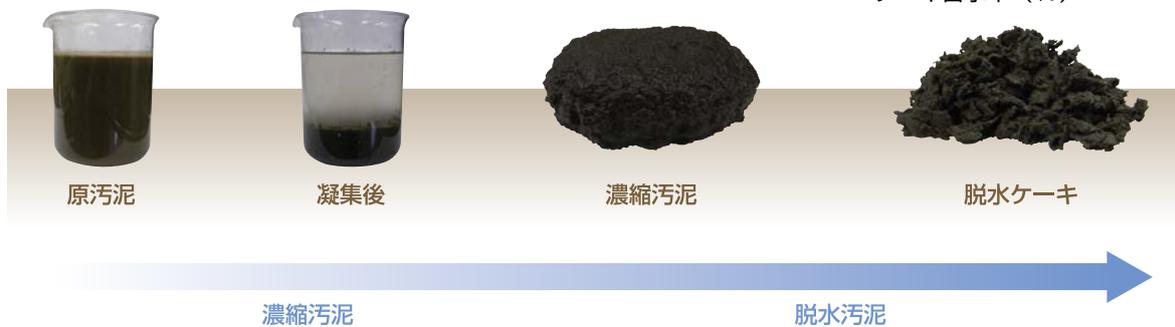
廃水処理用の高分子凝集剤(ハイモロック)は一般産業廃水、上下水道処理の処理薬剤として長い間使用されてきました。使用した水を効率よく再利用することは省資源、省エネルギーの観点から重要なテーマであり、最終処分廃棄物の減少はエネルギー消費、CO₂削減に大きく寄与します。ハイモはあらゆる廃水に迅速、的確に対応するため、全国各地の廃水、汚泥を採取、最適な薬剤と使用方法を提案しています。



■ 脱水処理後の廃棄物(ケーキ)発生量



■ 下水処理場で発生する汚泥の凝集脱水処理工程



お客様への責任

高品質の紙づくりとリサイクルに貢献 製紙用高分子薬剤

紙は人類の歴史と共に進化しており、現代社会にはなくてはならない存在です。製紙産業は、「森林」「紙」「エネルギー」を上手く循環させて、資源を有効に活用している産業です。日本国内の製紙会社における古紙の利用率は、2023年には66.8%に達しており、高水準で推移しています。現在、新聞用紙原料では70%以上、段ボール原料では殆どが古紙です。その古紙に混在する異物やインク等を取り除き、繊維だけを取り出し、古紙パルプとして再生する高度な技術が求められています。更に、製紙会社では、用水原単位の削減、環境規制への確実

な対応の推進、省資源、省エネルギーへの取り組みが求められ、地球環境保護の為の課題は多岐にわたっています。当社では、このような課題の中から、具体的に古紙原料使用による短繊維パルプのワイヤー上での歩留率向上及び乾燥性向上を目的に歩留向上剤や濾水性向上剤を提供し、省資源や省エネルギーに寄与しています。また、古紙原料から持ち込まれる糊やテープの粘着成分、ピッチ成分を抑制する独自性のある水溶性高分子薬剤を開発し、安定した抄造環境と高品質の紙質維持に貢献しています。



ハイモのCSR活動

環境への責任



左：製紙工場
右：古紙パルプ原料

社会・地域・従業員への責任

安全な作業環境づくり・作業の効率化・地域植生の回復に貢献



土木用薬剤

● 粉塵低減剤

トンネル工事で広く行われているNATM工法では、コンクリート吹付時に発生する大量の粉塵による作業者の健康への悪影響が課題となってきました。ハイモは長年培った水溶性高分子技術をもとに高性能な吹付コンクリート用の粉塵低減剤を開発、安全な作業環境の確保と経済的な工事の推進に活用されています。

● 泥土改質剤

土木工事や災害現場で発生した多量の泥土は非常に高い含水率と流動性を示し、除去作業・運搬において取扱いが困難となります。また処分の際、泥土流失などによる周辺への環境汚染の危険性もあります。このような流動性の高い泥土に泥土改質剤を加えて混合すると、瞬時に団粒化現象を示し、取扱い・運搬移動が容易となり環境汚染を未然に防止できます。

● 法面緑化用薬剤

土木工事の後の法面で、土や岩が風化され、降雨により多くの土砂が流出すると周辺環境は大きく破壊されます。これに対して、早期に植物が地表を覆って根を張り地盤を固めることが有効ですが、植物の種を蒔くだけでなく、種が素早くしっかりと斜面に固定される必要があります。工事で発生した廃棄物の木材や植物の根をチップ化し、現地の土を再利用したうえで、水溶性高分子を添加して団粒化^{*1}すると、法面に吹付けた後も土の水分を保ち、長期に渡って斜面への接着効果が維持され、良好な緑化基盤となります。現地の土に含まれる種子を利用することで、他の地域の植物を持ち込まずに廃棄物の有効利用も可能となり、地域植生回復に役立っています。



トンネル工事(コンクリート吹付)



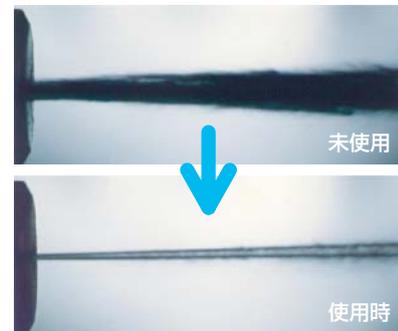
法面緑化

各種の切断加工にも活躍



収束剤

水溶性高分子を希釈した水溶液は僅かながら粘性を示します。この性質を利用し、この粘性溶液を高圧条件下で細いノズルから噴出させ合成ゴム、各種樹脂などを高精度に切断、精密加工することができます。また、このようなウォータージェット技術は土木分野でも利用されており、工事における鋼材や鉄筋コンクリート等の切断といった用途でもハイモの高分子薬剤が使用されています。



医療や生化学分野で活用される



電気泳動ゲル



生化学の発展のなかで、正確なタンパク質、DNAの分離、解析は重要な研究テーマであり、電気泳動^{*2}ゲルは今後の医薬品の開発、病理の解析、或いは生物体の遺伝子情報の研究等に欠かせない分析ツールとなっています。

■ 特徴

- 長期間の保存が可能のため、在庫管理が容易で、有効期限切れによる廃棄物の発生を抑制します。
- 大量生産による製造・流通コストの削減を実現しています。



電気泳動ゲルによるタンパク質の分析

用語集

^{*1} 団粒化：土壌の粒子が小さな塊を形成している構造

^{*2} 電気泳動：DNAやタンパク質などの生体分子を電気力によってふるいにかけ、分子の大きさによって分ける解析手法。

ハイモのCSR活動

CSR推進室を設置し、環境・安全および法令遵守に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。

社会に必要とされる企業として CSR推進室

当社では、2007年に全社を統括するRC^{*1}の推進部署として「RC推進室」を発足させ、環境や安全衛生、法令の遵守などに関わる活動に取り組んできました。

その後、企業の社会的責任(CSR^{*2})の重要性が高まるなか、2011年からRC推進室を「CSR推進室」に改称して、社会の一員としての役割をより一層担うことができる会社を目指

し、機能強化を行いました。これにより社内における環境や安全衛生に関わる管理だけでなく、会社活動が社会に与える影響に対しても責任を持って推進していく体制となりました。CSR推進室では、経営層で構成される「CSR委員会」や事業所毎の安全衛生委員会とも情報共有・相互連携を図り、活動のレベルアップに取り組んでいます。

品質・環境・安全・法令遵守への対応 主なCSR活動

コンプライアンスへの取り組み

CSR推進室では、2011年から、社員の意識・知識の向上を目的として、CSR研修会や社内報を通じた啓発活動を行っています。コロナ禍下の2020年からは、各人がパソコン・スマホ等を用いて学習する“eラーニング”によるコンプライアンス研修を定期的に開催しています。

また、2017年より経営層で構成される「CSR委員会」主導のもとコンプライアンス体制の再構築を開始、組織体制の整備や社内教育の充実化を進めるとともに、新規の社内規程「コンプライアンス規程」や、31箇条からなる具体的行動の規範「行動基準」といった、コンプライアンス実践の基盤となる文書を制定しました。更に、これらの文書の要点をまとめた小冊子「コンプライアンス・ハンドブック」を全従業員に配付

し、遵守すべき事柄の浸透を図っています。また、法令遵守のための取組みとして、2009年より法令改正の監視活動を継続しています。2019年から2024年にかけて、この活動における情報源や運用手順について見直し・強化を行い、情報入手を充実化・迅速化するとともに、頻繁に発生する法令改正に対して確実に対応する体制を確立し、運用しています。



品質・環境への取り組み [ISO9001・ISO14001]

品質方針に基づいて、常に品質改善と顧客満足の向上に取り組んでいます。1998年に神奈川工場がISO9001(品質ISO)の認証を取得し、その後、生産部門の全工場および開発部門にも認証範囲を拡大しています。

ISO14001(環境ISO)については、2002年に神奈川工場と山口工場が認証を取得し、生産部門の全工場に認証範囲を順次拡大しました。環境方針に基づいて“環境管理プログラム計画書”を策定し、生産部門全体で環境負荷・環境リスクの低減を目指した改善活動に取り組んでいます。

2015年にはISO規格が全面改訂され、実効性をより強化した内容に刷新されました。当社でも、品質ISO・環境ISOと

もに新規格に移行し、規格改訂のメリットを活かせる体制づくりを行っています。



ハイモのCSR

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任

用語集

^{*1} RC: Responsible Careの略。化学物質を取り扱う企業が、開発から廃棄までのライフサイクルにわたり環境・安全衛生について行う自主管理活動。
^{*2} CSR: Corporate Social Responsibilityの略。企業が利益の追求だけでなく、社会に対して与える影響に責任を持ち意思決定すること。

化学品安全、国内外法令への対応

全てのものは化学物質で構成されており、我々の生活を便利にしている一方で、労働環境・環境・消費活動を経由して様々な経路で暴露するリスクがあります。現在、日本では化学物質の全ライフサイクル(製造から廃棄まで)にわたり暴露経路やライフサイクルの段階に応じてきめ細かい法規制がしかれています。特に商品の提供においては、グローバル化を背景に、米国TSCA、欧州REACH規制、中国新規化学物質環境

管理弁法、危険化学品安全管理条例など様々な法律により、化学物質が管理されています。当社は化学品メーカーとして国内外の登録化学物質リストおよび法令の改正に適切な対応をとり、当社従業員の安全を確保するとともに、迅速にお客様に対する責任を果たすため、法令情報システムや社外データベースを活用し、日本を含め関係する各国の化学品規制の最新の状況や動向の情報収集・解析を常時行っています。

持続可能な社会の実現を目指して

SDGs への対応状況

2015年の国連サミットにおいて“持続可能な開発目標(SDGs[※])”が採択され、2030年までの達成を目指して、世界各国では活発な取り組みが行われています。この世界的な潮流を受けて、ハイモは、持続可能な社会の実現に不可欠な次の3項目を主要テーマに掲げ、廃水処理をはじめとする事業領域での活動を通して、SDGsの課題解決に向けて積極的に貢献しています。

- 水循環社会の実現を推進する
- 環境負荷低減・省資源化を進める
- 植生回復・緑化推進に努める

SDGs目標に関連するハイモの活動

※[]内は関連ページ

SDGs目標	ハイモの活動
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する <ul style="list-style-type: none"> ● 作業環境改善や医療の向上に寄与する製品を提供 [p.7] ● 自社製品の安全性に関する正確・適切な情報提供 ● 自社の活動で取扱う化学物質の適正管理
 6 安全な水とトイレを世界中に	全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する <ul style="list-style-type: none"> ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における排水水質の適正管理と改善 [p.12]
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー消費の低減に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動・生産プロセス等の省エネ化を推進 [p.12, 13]
 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する <ul style="list-style-type: none"> ● 自社の活動における労働災害防止への取り組み [p.13] ● 自社の労働環境整備・向上を推進 [p.14, 15]
 12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する <ul style="list-style-type: none"> ● 省資源化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における廃棄物の削減・リサイクルへの取り組み [p.12]
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる <ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出量低減に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動におけるCO₂排出量削減への取り組み [p.12]
 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する <ul style="list-style-type: none"> ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における排水水質の適正管理と改善 [p.12]
 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する <ul style="list-style-type: none"> ● 植生回復・緑化促進に寄与する製品を提供 [p.7] ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6]

環境への責任

環境等に関するさまざまな改善活動を継続しています。

ハイモについて

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任

環境関連データ

生産部門



全社的な傾向として、エネルギーのほとんどは生産活動に投入されています。

生産部門におけるエネルギー消費量の変化は、概ね生産量の増減に同調しており、生産活動に伴い発生する廃棄物も他部門と比較して多くなっています。生産部門では環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、このシステムの運用によって環境負荷や環境リスクの低減に取り組んでいます。

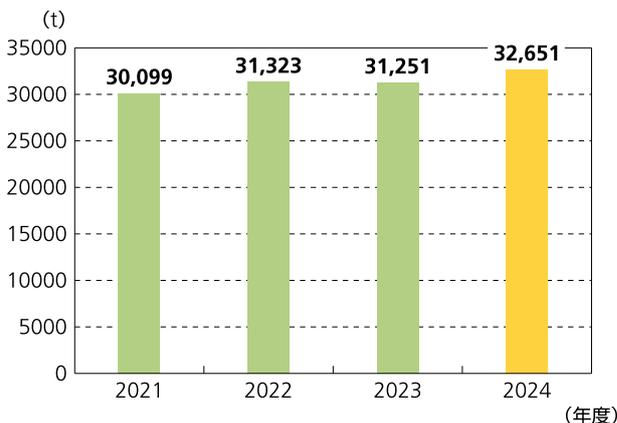
一方、営業部門では販売活動に伴う自動車移動で消費されるガソリン使用の比率が高くなっており、開発部門では、試作開発・各種分析に必要な熱源利用や、精密測定機器のメンテナンス・維持のため、床面積当りの電気使用量が多い傾向があります。

また、生産・営業・開発・管理の全部門において、廃棄物の減量化とリサイクルを推進しています。

生産量

2024年度の生産量は対前年度比で+4.5%と増加しました。

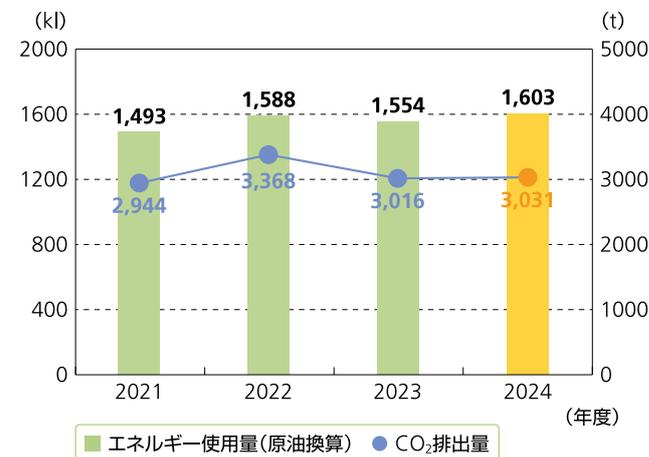
生産量



エネルギー使用量・CO₂排出量

エネルギー投入量は生産量増により対前年比で+3.2%増加しましたが、CO₂排出量はほぼ横ばいの結果となりました。

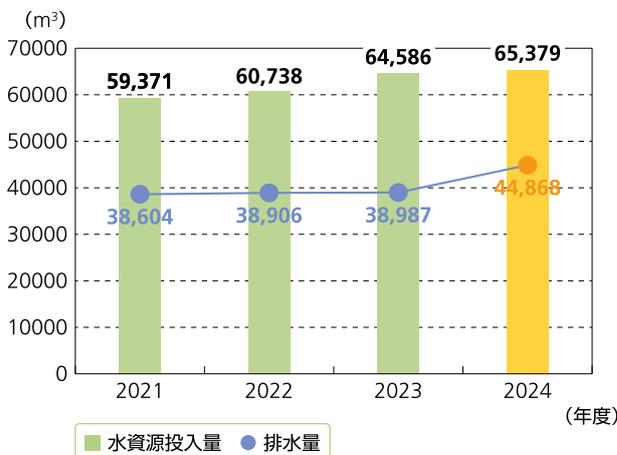
■ エネルギー使用量・CO₂排出量



水資源投入量・排水量

製造工程において原料として使用するほか、設備や製品容器を洗浄するために水を使用しています。2024年度は、生産量の増加に伴い、水資源投入量と排水量が増加しました。

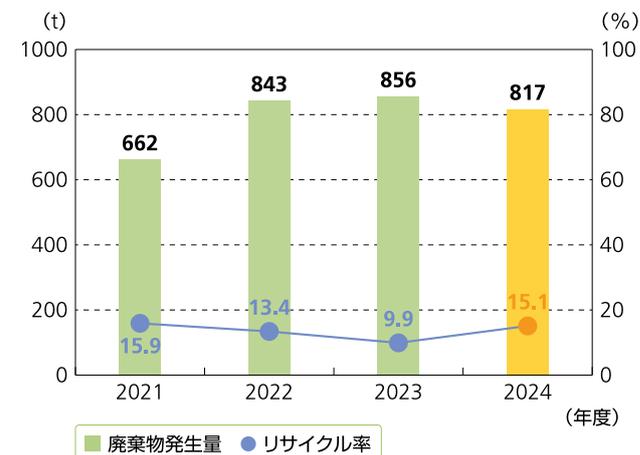
■ 水資源投入量・排水量



廃棄物発生量・リサイクル率

リサイクルを除く廃棄物発生量は昨年度比で10%減少し、生産部門全体として削減することができました。

■ 廃棄物発生量・リサイクル率



環境への責任

ハイモについて

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任



2024年度の目標と実績

環境安全活動状況

環境負荷低減に関するテーマについては、各工場における様々な取り組みが功を奏して、いずれも目標を達成することができました。しかしながら、安全衛生に関しては、人身災害が5件発生してしまいました。これらの結果を真摯に顧みて、災害・トラブルの再発防止を徹底するとともに、エネルギー消費・CO₂排出の更なる低減に取り組んでいきます。

推進項目	テーマ	2024年度目標	2024年度実績	関連ページ
環境負荷低減	CO ₂ 削減	製造原単位あたり CO ₂ 排出量 2023年度比1%以上削減	2023年度比3.8%減少	11
		製造原単位あたり エネルギー使用量 (電気・ガス・燃油) 2023年度比1%以上削減	2023年度比1.3%減少	11, 13
		製造原単位あたり 廃棄物発生量 (リサイクル分を除いた量) 2023年度比1%以上削減	2023年度比13.9%減少	11
	水生環境への 負荷低減	排出水のSS ^{*1} 濃度 法令による基準値の50%以下 (年間平均として)	法令による基準値の24.7%	-
		排出水のCOD ^{*2} 濃度 当社自主基準値の50%以下 (年間平均として)	当社自主基準値の19.9%	-
安全衛生	安全操業の推進	人身休業災害なし 人身無休災害なし	人身休業災害：3件 人身無休災害：2件	13
		安全教育の実施	従業員、委託業者への安全教育を実施	-
		事業所内の安全パトロールの実施	定期的な安全パトロールを実施 (1回/月など)	-
		5S ^{*3} 推進活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各職場にて5S活動・5S啓発を実施 製造現場等の5S状態のチェック・指導を実施 	-
危機管理	防災体制の整備	防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災などを想定した防災訓練を実施 災害時の安否報告訓練を実施 	13, 14
社会との共存	社会活動への参加	地域の社会・環境活動への参加	地域の清掃活動に参加	-
	環境情報の発信	HYMO CSR Reportの発行	発行を実施	-

用語集

*1 SS: Suspended Solidの略。浮遊物質。水中に浮遊している不溶性物質のこと。
 *2 COD: Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) の略。有機汚濁物質による水質の汚れ度合いを示す数値のひとつ。
 *3 5S: 整理・整頓・清掃・清潔・躰の5項目。

社会・地域・従業員への責任

化学メーカーにおける「安全」は、社員にとっても、また地域の皆様のためにも、最優先で取り組むべき課題です。

安全な職場づくりを目指して 労働災害防止への取り組み

安全操業は生産活動の基本です。当社では全国の生産拠点で、労働災害防止の取り組みを進めています。事故・トラブル事例の情報共有や水平展開、安全パトロール等による職場環境の改善、災害防止のための定

期的な訓練等を通して、日々安全操業のレベルアップを図っています。更に2015年度から、BCP*に基づく取り組みも併せて行い、安全操業と供給責任の達成の両立を進めています。

■ 災害件数

年度	休業災害	無休災害
2022	1	4
2023	0	6
2024	3	2

各工場で定期的に実施 防災訓練 (2024年度)

毎年各工場テーマを設定し、防災・避難訓練を実施しています。地震発生を想定し、「どの経路からどのように非難するのか」を意識しながら訓練を行いました。また、緊急時機材や非常用品の在庫確認も行い、万が一の事態に備えています。

- **青森工場**
製品漏洩時対応訓練、災害時指定避難場所確認
- **神奈川工場**
地震体験車による大震災体験、消火器訓練
- **山口工場**
放水訓練、漏洩物回収訓練
- **福岡工場**
AED設置場所確認、操作手順動画視聴



青森工場



神奈川工場



山口工場

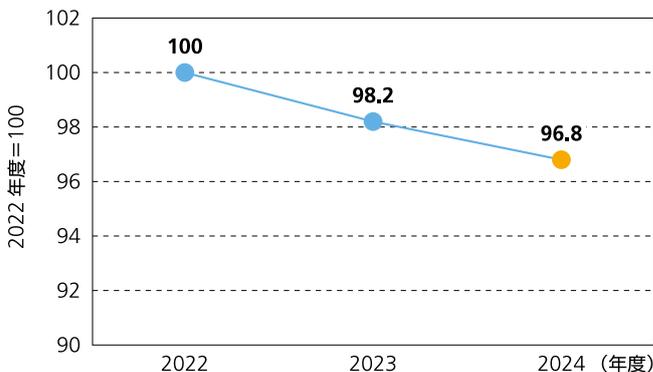


福岡工場

省エネへの取り組み 様々な手法によるエネルギー使用量の低減

エネルギー使用量の低減を目指し、全工場にて省エネの取り組みを行っています。2023年度に引き続き、2024年度もエネルギー消費原単位を改善することができました。製造工程の見直し、冷凍機・クーリングタワーの最適稼働、旧式設備の更新など、検証を行いながら継続的に進めています。引き続きエネルギー消費原単位の前年度比1%削減を目標とし、効率的なエネルギー使用を目指します。

■ 生産部門全体のエネルギー消費原単位推移



社会・地域・従業員への責任

責任ある企業として、地域社会への貢献や従業員満足度の増進に取り組んでいます。

ハイモの責任



従業員の意識向上

安全衛生・災害への取り組み

湘南研究センターでは、職場の安全や所員の健康維持のため、安全衛生委員会の主導のもと、安全や衛生に関する様々な課題の解決と改善活動に取り組んでいます。

日常的な活動としては、所内の安全パトロールや各部署のトラブル・ヒヤリハット情報への対応を行い、継続的な予防・改善に努めています。

また、全所員参加による安全教育(月1回)や避難訓練(年1回)を実施して意識の向上を図っています。2024年度の避難訓練では、地震発生時に負傷者が出たとの想定で、負傷者搬送、AED対応テントの設営、救急通報等の訓練を行いました。

そのほか、外部機関を利用した教育にも力を入れており、2024年度は、救命技能を身につけるため、消防署で実施された普通救急救命講座に参加しています。



避難訓練での負傷者搬送訓練

お客様への責任



生産性向上と安全・安心のために

ICT活用推進と情報セキュリティへの取り組み

現在、情報システムやインターネットは企業活動に欠かせないものとなっています。ハイモでは、以前から社内ネットワークをはじめとする情報基盤の整備や、業務のデジタル化・ペーパーレス化を推進し、生産性と品質の向上を目指したICT^{*1}の活用積極的に取り組んでいます。2024年度には、社内手続きのデジタル化、生産現場へのタブレット端末導入、工場設備の遠隔監視体制強化、研究センターでの試験業務支援システムの構築などを行いました。一方で、ICTの利用に伴うリスク、たとえばシステムの停止や機密情報の漏洩など、

企業に大きな被害をもたらす可能性がある事象への対策も重要です。ハイモでは、サイバー攻撃など不測の事態においても安全に業務を継続できるよう、情報セキュリティ体制の構築を進めるとともに、定期的に従業員への情報セキュリティ教育を実施しています。2024年度には、社内のすべてのPCに次世代型アンチウイルスソフトやEDR^{*2}を導入したほか、工場における制御系システムのセキュリティ強化、全社員を対象とした標的型攻撃メール訓練およびeラーニングの実施など、さまざまな取り組みを行いました。



生産現場へのタブレット端末導入

ハイモのCSR活動

環境への責任



従業員が安心して働ける環境づくり

ハラスメント相談窓口・法律相談窓口の設置

福利厚生制度の一環として、メンタルヘルスやハラスメント問題、また、法律問題に直面した場合に専門家に相談できる窓口を設置しました。

メンタルヘルスやハラスメント問題に関しては、社外のカウンセラーへの電話相談やWEB面談を全国の事業所から全従業員が利用することができます。

業員が利用することができます。

法律相談につきましては、当社の顧問弁護士事務所と提携し気軽に法律相談を行うことができます。

これらの相談窓口を設置することで従業員のストレスや不安を解消し、より安心して働ける環境を実現していきます。

社会・地域・従業員への責任

用語集

*1 ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術)の略。

*2 EDR: Endpoint Detection and Responseの略。情報端末への不審なプログラムの侵入を検知し被害を抑制するソフトウェア。



多様な人材の活躍を推進

誰もが安心して活躍できる職場環境のために

ハイモでは、多様な個性や価値観を持つ人材が安心して活躍できるように、人事制度を刷新し、柔軟な働き方を選べる制度の拡充など環境づくりに力を入れてきました。それととも

に、女性や中途人材の採用、定年退職者の再雇用を全ての職種において推進しています。

■ 従業員における女性の比率

年度	比率
2022	28.2%
2023	30.1%
2024	28.4%

■ 管理職における女性の比率

年度	比率
2022	9.8%
2023	10.5%
2024	7.0%

■ 従業員における定年後再雇用者の比率

年度	比率
2022	5.3%
2023	3.9%
2024	3.9%

※いずれも各年度4月1日時点の数値



2024年度は延べ9名が取得

育児休業制度、育児短時間勤務制度等

2024年度は、2名の女性社員と、1名の男性社員が育児休業を取得しました。また、4名の女性社員と3名の男性社員が、育児のための勤務時間短縮、及びフレックス勤務制度を利用して就業し、育児と仕事の両立を図っています。

2019年度に初めて男性社員が育児休業を取得し、それ以降、男性社員の育児関連制度の利用実績も増えています。男性社員や複数回利用者にとっても、利用しやすい制度となる様、これからも制度の更なる見直しを図っていきます。

■ 育児支援制度利用者数

年度	男性	女性
2022	3	5
2023	5	5
2024	4	5



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

有給休暇の取得状況

当社は従来より、有給休暇取得促進の観点から、入社初年度の取得可能日数増(13日間)や有給休暇の計画的付与日数増(1日増、計2日間)に取り組んできました。2024年度の有給休暇の平均取得日数は13.1日、平均取得率は75.6%となり、

2023年度と比較して、平均取得日数は1.1日減、平均取得率は5.3ポイント減となりました。これからも足元の状況変化等に柔軟に対応し、社員にとって有給休暇が取得しやすい環境作りに努めていきます。

■ 有給休暇の年間取得日数

年度	取得日数
2022	13.8日
2023	14.2日
2024	13.1日



キャリア開発

英会話教室開講、新しい教育研修プログラムの構築

2015年度より、社員の自己啓発支援を目的とし、外部講師による英会話教室を開講しています。2024年度は、本社および湘南研究センターにて開催、外国人の講師を招いて実施しました。また、全社員を対象とした新しい教育研修プログラムを構築

し、会社の業績向上と継続的な発展に向け、全社員のレベルアップと成長を図っています。これからも社員のスキルアップに資する施策を展開していきます。



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3833

社名コンセプト

社名「ハイモ(HYMO)」は、これからの当社の企業姿勢と、事業領域とを示しています。

企業姿勢とは、「高く優れた(High)技術によって、より多く(More)お客様の信頼に応えていくために行動、努力すること」です。

事業領域とは、「Hydro Modern Chemistry(水とニュー化学)」という新しい事業領域です。